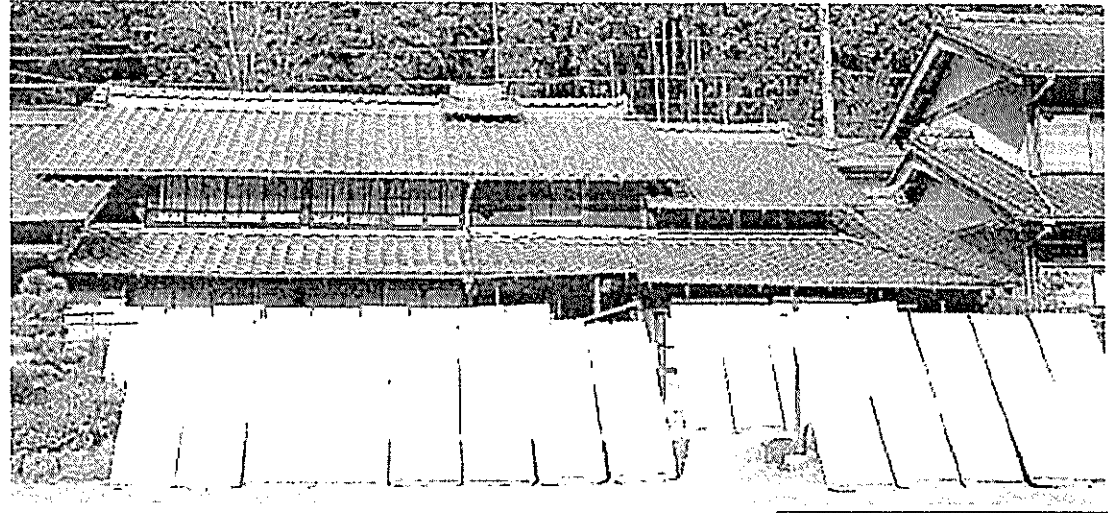


## 清流が育む伝統文化 美濃市

すいた紙を干し板に張りつけて天日干しにするなどして作られる本美濃紙＝美濃市内



# 美濃和紙「水の恵み」

## 世界農業遺産への道

清流が育む

長良川流域には、水が

深く関わる歴史や伝統文化が数多くある。中でも、

美濃市の手すき和紙技術の「一本美濃紙」は昨年11月、ユネスコの世界無形文化遺産に登録され、世

界の多くの人が知るところになるよう、和紙と清流

は密接な関係があり、美濃和紙は清流に恵まれた美濃市で大切に守り伝えられてきた市民共有の財産である。

市内には和紙に関連した文化財も数多く残り、江戸時代以降、和紙や木材などの流通で栄えた商家町は、うだつの上がる町並みとして往時の姿を

伝え、長良川を使った舟運の拠点には川湊灯台

が残る。

長良川流域では美濃和紙を使った伝統工芸品も多くあり、岐阜市の和傘や提灯、うちわなどには美濃和紙が使われている。

そしてこれら伝統工芸品の部材には、長良川流域に広がる豊かな森林で育った木や竹などが用いられている。

美濃和紙をはじめとする歴史や伝統文化は、清流長良川によって育まれてきた「里川」の文化だ。

## 清流が育む伝統文化 郡上市

# 生活に寄り添う水舟

## 世界農業遺産への道

清流長良川の水

河川・谷川・山水・湧もその一つだ。水・井戸水など、多様な豊富な水源を有する郡上市の「郡上八幡」には、水源ごとに最適な水利用が伝承されている。山水を主な水源とする水舟

水舟は2〜3段の箱型の水槽で、最上段は飲み水、中段はすすぎ水、下段は洗い水として目的ごとの水利用に適した形をしている。また、多くの

水舟には水神が祭られており、利用する地元の皆さんによって大切に守られている。上水道が普及している現在の日本では、蛇口から清潔な水がいつでも出てくる。しかし、快適な水環境を求めた結果、一度使った水はすぐに下水になり、施設で浄化されるため、水の行き先を

イメージすることはない。一方で、上水・下水の分けがなく目的を變え何度も利用し、次に使う人のために水の行方に責任を持つのが、水舟をほじめとする郡上八幡の伝統的な水利用の精神である。



水舟で野菜を水洗いする女性。水の町・郡上八幡を象徴する風景だ＝郡上市八幡町

## 岐阜県

### 清流が育む伝統文化

# 観光資源、魅力広める

## 世界農業遺産への道

清流長良川の

しみ方を再発見できると好評だ。

清流長良川を取り巻くする取り組みが盛んだ。エリアの魅力は、長良川の優れた水質や美しい景観に加え、古い街並み、鶴飼や美濃和紙など、歴史・文化・技術が、今なお綿々と受け継がれているところにある。

近年、流域各地では、これらの伝統を生かしながら、長良川エリアの楽しみ方を再発見しようと

清流長良川を取り巻くする取り組みが盛んだ。今年5年目を迎える「長良川温泉泊覧会」は、観光関係団体やまちづくりに関する団体などにより組織された実行委員会が、伝統漁法や鮎料理などの流域で育まれた地域資源を活用した体験プログラムを毎年企画し、実施している。参加者からは、多岐に渡る長良川エリアの楽しみ方を再発見できると好評だ。伝統を守り、受け継いでいくためには、その魅力を広め、多くの人々に楽しんでもらう視点も欠かせない。環境の変化に適応しながら進化を続ける「生きている遺産」とも言われる世界農業遺産を目指す「清流長良川の鮎」にとって、こうした観光資源としての活用も、次世代への継承に向けた大きな力となるだろう。

「清流が育む伝統文化」おわり

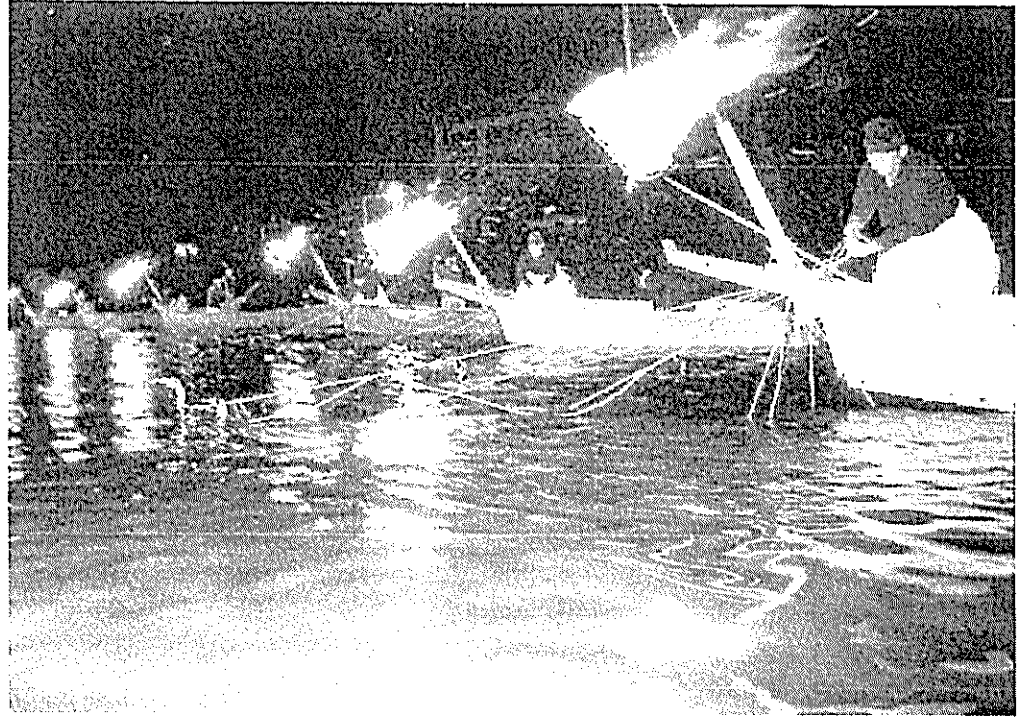
川漁師を体験するプログラムで蟹籠(かにかご)漁を楽しむ観光客 =岐阜市の長良川



## 未来への課題と展望

## 岐阜市

伝統装束に身を包んだ鶴匠が鶴を自在に操り、魚を捕らえる「長良川鶴飼」。世界に誇る伝統漁法だ＝岐阜市、長良川



# 保全への機運高める

## 世界農業遺産への道

長良川

岐阜市の中心部を流れる清流長良川は、日本三大清流の一つとして、高い水質を誇り、市民の心の古里、憩いの場所でもある。市民の日常生活に最も大切な飲料水としての恩恵をもたらす、流域で暮らすわれわれ住民にとって、生活していく上で深い関わりを持っている。

流域に広がる砂質土壌地帯で栽培される「ほうれんそう」など、市を代表する「ぎふ野菜」や1300年の歴史を誇る伝統的な漁法「長良川鶴飼」、上流域の自治体と連携して、森林を整備する「分収造林たすき」などの森「造成事業など、岐阜市はさまざまな取

り組みの中で、この長良川と深くかかわっている。

長良川を次世代に引き継ぐため、流域住民の長良川保全に対する機運を高め、地域の経済活動や歴史、文化の継承、環境保全活動を進めていく。

特に「長良川鶴飼」は、

国連食糧農業機関（FAO）が認定する世界農業遺産。昨秋、県内で初めて「清流長良川の鮎」が国内候補に選ばれ、県などでは年内の認定を目指す。長良川や鮎にまつわる話題を「清流長良川の農林水産業推進協議会」に加盟する岐阜、

たよな幻想的な歴史絵巻の世界へと誘う。今後、岐阜市では、長

関、美濃、郡上各市の協力を得て今回もシリーズで紹介する。

## 未来への課題と展望

## 関市

豊かな自然環境にある小瀬鶴飼漁場。憩いの場としても親しまれている  
=関市、長良川



# 流域住民一体で守る

## 世界農業遺産への道

清流長良川の

清流長良川は、流域の人々の生活や営みによって守られ、鮎や希少魚種の保全、鶴飼などの伝統漁法の継承、関市が力を注ぐ鮎井などの食文化を発達させるとともに多くの人々に四季折々の安らぎを与えてきた。

流域の森林の開発、工業利用などによって、河川環境の悪化や漁業資源の減少も危惧されている。

このような状況の中、後世に清流長良川を伝承していくためには、水環境の保全、漁業資源の確保、生物多様性の維持が

しかし、近年では、流

保、生物多様性の維持が

ない。

必要であるのは言わずもないうまい。

現在まで、水を汚さない生活、水源林の育成や河川環境保全活動によって清流長良川が保たれてきたという原点を見つめ直すことが必要だろう。小瀬鶴飼をはじめ、より一層、長良川が憩いの場として親しまれるよう流域住民が一体となって、努めていかなければなら

## 未来への課題と展望 美濃市

# 「和紙」で地域活性化

## 世界農業遺産への道

清流長良川の源流

清流長良川の流域では、人々の暮らしや地域経済、歴史・文化が川を核として深く結びついてきた。豊かな森林を源流とする長良川は、鮎をはじめサツキマスやカジカなどの多様な生態系と水面漁業をもたらし、私

の国ぎふの宝ものとして新たな世代へ守り伝えようとしている。

美濃市は、手漉和紙技術の後世に伝えるべく、昨年「美濃和紙伝承千年プロジェクト」を始めた。1300年培われてきた手漉和紙技術を、年後に伝えるとともに、「美濃和紙」をテーマに地域活性化を図ろうとしている。後継者育成やコウ

ゾなど和紙原材料の確保、伝統的な紙漉き家屋の改修保存、消費者ニーズに即した商品開発などをはじめ、美濃和紙を核として産業、観光、文化などとさまざまな場面で取り組みを進め、市の活性化につなげていく。千年プロジェクトは「生きていく遺産」といわれる世界農業遺産の理念にも合致する。プロジェクトの実現とともに、清流長良川の世界農業遺産の登録に向け、市民一丸となって取り組んでいきたい。



本美濃紙の製造工程「川ざらし」。川の恵みを生かし、清流でコウゾを自然漂白させる＝美濃市、長良川